



テキスト『こころのドリル』コミニケ出版発行

三. 『こころのドリル』の活用

そのような子どもたちの日常の様子を見ていく中で、幼児期においても道德教育を行うことは、子どもの心の成長に大きな影響があること、また子どもたち同士の関わりを見ることで、道德教育が人間関係の形成にも必要であることがわかったように思います。この麗澤幼稚園での経験が、海田幼稚園における道德教育の基盤となりました。「こころのじかん」の保育は麗澤幼稚園で使っていた『こころのドリル』を活用しています。

『こころのドリル』について

こころのじかんでは、『こころのドリル』の中にある「ありがとう」「ごめんさい」「いのち」など三十のテーマの中から、毎回一つをピックアップして、そのテーマに基づいた活動を考えます。主に『こころのドリル』はまとめとして、保育のおしまいの頃に読んで聞かせ、全体で確認を行っています。ドリルにはそのテーマに沿ったイラストが毎ページ書かれていますので、そのイラストも用いて全体で確認することで、視覚的にも大事なことがわかり、より子どもたちが理解しやすいように感じます。

四. 六年を経て感じられる手ごたえ

「私、こころのじかんが大好きだから、もっともつとやりたい！」五年目の時、年長の女の子が、残り二回となったこころの時間の保育前に言ってくれた言葉です。回数を重ねて子どもたちからこのような言葉ももらうことが増えてきました。麗澤幼稚園

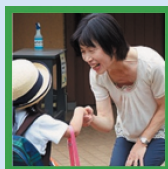
と同じように、海田幼稚園の子どもたちの中にも、大きなピンクの心が育っていつていることを感じる毎日です。私にできることは限られています。心を入れて保育にあたり、少しでもピンクの心を育てるお手伝いのできたらと思っています。

五. 幼児期における道德教育 発展への願い

小中学校では道德が教科化され、世間でも「道德」が注目を集めるようになりました。そして、今後この流れは幼稚園にも及ぶのではないのでしょうか。人生の基盤となる心の成長を育む幼児期にも、道德教育が大切に、大きな意味を持つことを、私自身も痛感しています。同じように道德教育に取り組む保育者の方々と、共に幼児期の道德教育を発展させていきたいと思えますし、それが広島県、ひいては日本の道德力の底上げに繋がれば、と願っています。

◆次号に、岡本先生の具体的な道德指導の実践を紹介します。

麗澤幼稚園の道德教育と岡本先生の思い出



麗澤幼稚園では、「①優しく思いやりのある子②ありがとうと言える子③自分のことは自分でする子」の3つを教育目標に掲げ、取り組んでいます。幼稚園の一日は、年長組当番による国旗掲揚で始まり、朝の会では、その日の活動や園児の様子に合わせて『こころのドリル』の中から一項目を選んで読み、それに関連した担任の経験談等も交えながら話をします。

年長組になると個人持ちとなり、担任は声を合わせて一緒に読みながら、しっかりと子どもの心の引き出しに入れていきます。活動では、異年齢交流を大切にしており、園だけの兄弟関係を意図的に作り、1年間同じペアで活動やお弁当パーティーをします。年下を思いやりいたわる心や、年長を憧れ慕う心が生まれ、翌年は順次恩送りがかかります。そんな園生活の中で、岡本美佳先生は、一人ひとりの園児をよく観察し、こころという時に適切なアドバイスや褒め言葉をかけ、見事な心育てのできる先生でした。忘れもしないのは、ある年の発表会のこと。発表会直前にインフルエンザが流行し、美佳先生のクラスだけが学級閉鎖に…。ところが迎えた発表会当日、他クラス以上の出来栄で、日頃から子どもたちの心育てができていたからこそと、演じた劇の内容と共に、感動で涙を流しました。感性豊かなお人柄で、ご自分の心の声を「詩」として表現し、ノートに書き溜めていた姿も印象的です。(園長・岡田喜)